

ちば里山新聞

(第31号)

編集・発行 NPO法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
電話 0438-62-8895
題字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの委託事業を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています。

「東北地方太平洋沖地震」はこれまでに経験のない甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。共に復興に向けて努力をしていきましょう。

“未来に繋げる風景”を取り戻せ！ 200人が大集合！！



3・11 津波跡の海岸林復活植樹イベント

千葉県も震災被害はひどく、津波による塩害で海岸林のダメージは想像以上です。そんな中、県内最大級の植樹が殿ヶ下海岸で決行。復興プロジェクトとして《NPO法人森のライフスタイル研究所》が中心になり、『3.11津波跡の海岸林復活植樹イベント(トヨタ自動車環境活動助成プログラム)』が2月25日に行われました。代表理事の竹垣英信さんは「震災1年を前に植樹して震災の悲惨さと保安林の重要性を再確認した」とコメント(朝日新聞千葉面「2012年2月26日付け朝刊」より)。50年後の保安林につなげる活動は、これからも続いていきます。



添え木として使われた篠竹は県内の里山から集められた。



枯れた木々を伐採、チップ化したものを林内に敷き詰めてからの植樹



都内、県内から雨の中、220名を超える“緑の守り人”が、6000平米にクロマツ3000本、トベラ1500本、マサキ1500本を植樹。道具は(社)千葉県緑化推進委員会の提供で、みなさんの力を借り、成功できました。

森のチカラを再生し、震災復興に貢献

1 フォレストヒーローズ

皆さま、「フォレストヒーローズ」をご存じでしょうか。日本語に直訳すると「森の英雄」という意味です。森林に関する世界的な取り組み課題の検討する場として国連に常設されている委員会「国連森林フォーラム(UNFF)」では、国際森林年に際して森林に関する功労者を世界中から募集して顕彰する「フォレストヒーローズ」を実施しています。

平成24年2月8日(現地ニューヨーク時間)、2名の特別表彰者(故人)を含む8名の受賞者が発表され、アジア地域から我が国の畠山重篤さん(宮城県)が選ばれ、2月9日に国連本部で開催される国際森林年クロージングセレモニーで表彰されました。

畠山さんは、宮城県気仙沼で長年カキの養殖に従事されてきました。カキの漁場は川と海が交わる汽水域にあるので、川の流域の森が荒れてくると、良いカキが採れなくなることを経験されました。農薬や化学肥料、工場や生活排水などの問題で、今から30年くらい前、気仙沼でも赤潮が発生するようになり、カキの身が真っ赤になってしまいました。この赤潮の海を青い海に戻そうという思いから、気仙沼に流れ込む大川の上流で落葉樹を植える活動を平成元年から今日に至るまで実施されています。また植樹活動以外にも、川の流域に住む子供たちを海に呼び体験学習を行うことで、森と川と海はひとつにつながっているということを訴えてこられました。これらの活動が評価され、アジア代表の「森の英雄」として表彰されました。

次に挙げるのは、畠山さんご自身の言葉です。森のチカラで、日本を元気にするモデルをまさに述べられています。

「昨年3月11日の東日本大震災では、海の生き物もいなくなり、気仙沼の海も死んだかと思いましたが、時間の経過とともに海はどんどん回復していきました。それはやはりそこに流れている川と、背景の森林が健全だったからだと思います。しかし、川の流域にはまだ戦後植えたスギなどの針葉樹が真っ暗になるほど残っています。宮城県では震災により20万戸以上の家が全壊・半壊しました。この暗い森に間伐の光を入れ、川の流域の国産材を使って復興の家を建てれば、それは雇用を生み、最終的に海の復興にもつながります。世界的な復興のモデルともなるでしょう。」

2 森林を通じた被災地支援の取組

森林・林業分野における被災地への支援策は、企業やNPOを中心に様々な手法でプロジェクトが進められています。

主要な取組を下記の通り紹介します。こちらに挙げた取組はごく一部であり、活動の輪が広がれば大きな運動になり、被災地への大きな支援となることは間違いありません。

震災復興に向けて、行政がしなければならないことは沢山ありますが、こういった民間の取組を後方支援することも重要な役割の一つだと考えています。今後とも、こうした取組が継続的に実施され、被災地への支援、そして森林のチカラを再生することで、日本を元気にできるよう努めて参りたいと考えます。

最後になりますが、この度、ちば里山センター松永様のお誘いで3回にわたり寄稿させて頂きました。稚拙で読みづらい文面であったこととお詫び申し上げます。今後の皆様方のご活躍を祈念申し上げます。

○どんぐりプロジェクト (Project-D)

全国の子どもたちが中心となって、被災地に植える広葉樹の苗木を、被災地周辺でとれた種子を使って育てることを通じ、被災地の子どもたちを応援する気持ちを届け、復興を支援するとともに、地域の生態系に配慮した緑化に貢献します。また、ふるさとの緑を再生し、震災からの復興のシンボルとして、被災地の人々による地域再生に向けた取り組みを後押しします。

○「グリーンウェイ2012」

生物多様性条約事務局(カナダ)が全世界に参加を呼び掛けているもので、国連の定める「生物多様性の日・5月22日」の朝10時(現地時間)に、世界各地の青少年の手で、それぞれの学校や地域で植樹などを行うことにより、その行動が地球上を東から西へと波のように広がっていく、つまり「緑の波(グリーンウェイ)」をつくらう、というもの。

○緑の募金「東日本大震災復興事業」

「緑の募金」において震災復興を目的とした使途限定募金を呼びかけ、集まった寄付金で東日本大震災復興事業を実施しています。具体的には、防災林等の森林整備、居住地域や学校周辺の緑化及び間伐材等による「組手仕」の寄贈などに支援を行っています。

「さんむ日向の森」植樹イベント開催

プレゼントツリー for さんむ日向の森 参加者 80名



植林 山武市市長

誕生日・結婚・子どもの記念、個人の記念に木を贈る取り組みです。



イベント会場にて千葉県里山活動協定認定授与式が執り行われました。

山武市
認定NPO法人環境リレーションズ研究所
さんむフォレスト
森林組合

認定証が北部林業事務所梅山氏から手渡されました。

りレー
エッセイ

里山とわたし

新井 孝男
(ちば千年の森をつくる会)

「いやー！今日は心がやすまった」

これは、千年の森・豊英島からの帰りの車中での連合いとの会話。彼岸の中日、千年の森をつくる会の例会に参加した。豊英島は工業用水ダムができて、山の一部がダム湖に浮かぶ形で残った陸の孤島である。ここが千年の森をつくる会のフィールド。

早春の山は「山笑う」と季語にあるように、芽吹きを迎え、木々は日一日とその色を変え、山全体が萌える。林の中には春蘭やスハマソウがひそかに咲き、オニシバリやアセビが今を盛りと咲き誇っていた。そのなか真竹の伐採やシイタケの採取などの共同作業に汗を流す。ここのところやたらと忙しく、かつ気ぜわしいことが続いていた。だからなのかこの解放感。やすらぎ。10余年通った豊英でも初めてだ。

突然フラッシュバック・・・子供のころの情景が

たしか、似た景色を・・・いつか見た懐かしい雰囲気だ。そうだ、春蘭がたくさんあった我が家の裏山だ。そうか、進学で上京するまでに過ごした、あの姿だ。鮮やかに時代はよみがえる。

晩秋から春先、大人は農作業や林業に忙しく、薪づくり(燃料確保)は子供の仕事。土日には遠い山まで出かけ、雑木林の枯損木(枯れ木)を切り倒し、鉦を振るって同じ長さに切り、きれいな束(束)を作る。これをたくさん作り、一回2～3束を背負子で背負って、我が家に帰り、木小屋に積み上げる。あの高さまで積み上げないと一年分にならない、と言って頑張った。月～金は、毎朝、5時起きで、土日に作った薪の束を我が家に運ぶのが、登校前の日課。山は、枯れ木はこうして整理され、雑木林は成長し、やがて、伐採され木炭や薪として製品となり、東京の庶民の燃料となっていた。伐採後、その土地に数年は大豆、小豆やそばを蒔く。やがて切り株から萌芽が育ち、また林となる。これが雑木林、里山の循環であり、生活の糧となっていた。

あのころの体験が、還暦を過ぎ、今里山活動をする中で、自分の中によみがえったのである。鉦を振る、林をきれいにする、そんな単純な作業が、理屈でなく、安らぎを生む。

タケ切りから始まった千年の森の活動・・・少しの労力も集まれば力

10数年前、豊英島は真竹の繁茂する真つ暗な林だった。会員は3年にわたり夏の活動のほとんどをタケの除伐に費やした。素人集団でも数の力はすごい。さしものタケもなくなり、すっかりきれいに明るくなった。今では筍をシカの食害から守るため、タケ保護柵が必要となるほどだ。

市民、ボランティアが、少しの労力を房総の山に注げば、その林はきれいになり、地域に恵みを与えてくれる。そして、心休まる里山が広がる。



3.20. タケ切り作業後仲間たちと
(前列右端・筆者)

『緑の守り人』 イベント情報

2012年は、10年に一度、開かれる“地球サミット”イヤー。世界中で「地球の未来」を考えます。日本でも森のスペシャリストたちによるイベントが目白押しです。自分に合ったイベントを探し、是非、参加してみてください。

第9回里山シンポジウム主催事業

里山の魅力発見 2012 中房総の小さな旅



開催日：4月7日(土)

●1都10県を見はるかす
御十八夜からの眺望
歴史ある街並みと米沢の森の眺望を
堪能しながら御十八夜

開催日：4月14日(土)

●手つかずの古墳群・古城址を巡る
& 筍掘り
養老川土宇橋を出発し、安須、高坂
(古墳群・古城址、筍掘り)、光風ガー
デンを巡る。

開催日：4月21日(土)

●新緑の養老溪谷を歩く
素掘りトンネルと不動の滝
駅には足湯もあり。大久保駅→不動
の滝→石神菜の花→養老溪谷(八犬
伝)→養老溪谷駅で足湯。

開催日：4月28日(土)

●菜の花の小湊鉄道沿線を歩く
波の伊八に出会う旅
線路沿いを散策し茅葺きの民家、桜、
イチョウの巨木を堪能。真高寺山門
で“波の伊八”の作品と対面。

開催日：4月29日(日)

●古代市原発見ウォーク
【国分寺“北斗七星”】
上総国分寺と国分尼寺を歩き、稲荷
台古墳を含む“北斗七星”の解説
《市原市立国分寺公民館主催事業》

開催日：5月12日(土)

●懐かしいふるさとの味と
野鳥さえずる市民の森散策
地域の皆さんと昔ながらの料理を楽
しみ、森の自然を観察。プロによる
チェーンソーカービング実演

※ 申込み、問い合わせ 特定非営利活動法人ちば里山センター
電話 0438-62-8895 FAX 0438-62-8896 E-mail info@chiba-satoyama.net

第9回里山シンポジウム in 市原

里山の魅力発見

～中房総の原風景を支える底チカラ～

基調講演では、北川フラム氏を招き、「里山の輝き」をテーマに里山の魅力、新たな可能性を探る。パネルディスカッションでは、遠山あき氏(農民文学者)、林秀一氏(上古敷谷里山の会代表)、佐久間隆義氏(市原市長)が参加。

2012年5月27日(日) 10:00~16:00

東海大学付属望洋高等学校 松前記念講堂

参加費 500円

問い合わせ 里山シンポジウム実行委員会

電話 090-4735-6504 (高橋)

公式HP <http://www.satochiba.jp>



※詳細については、ちば里山センターホームページをご覧ください。※参加お申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

TEL 0438-62-8895 FAX 0438-62-8896

e-mail: info@chiba-satoyama.net

